

生徒作品例(主題「標識」)



活用場面

一斉学習

教師による教材の提示

個別学習

個に応じた学習

調査活動

思考を深める学習

協働学習

発表や話し合い

協働での意見整理

活用した機器等

Chromebook

活用したアプリ等

Google ドキュメント
Google Classroom
Google スライド
カメラ機能

学習のねらい

似た特徴を持つ被写体を同じフォーマットや条件で撮影し、その集合体として表現することで、逆に微細な差異に意識を向けることができるメディア表現、タイポロジーの手法を用いて、①価値の再発見 ②現場で主体的に活動する大切さ ③対話による思考の深まり ④過程(記録)が表現として成立することを、実感する。一貫した視点と方法で捉えることにより、類似性や差異を明確に浮かび上がらせ、個別の被写体では見えない全体像として一つの作品になることを理解する。

学習の流れ

導入

- ・教科書の作品『WATER TOWERS』(ベルント・ベッヒャー)を題材として作者は、なぜこのような表現をしたのかグループで意見交換・発表する。
- ・タイポロジーの表現の意図を理解する。



展開

- ・タイポロジー的な作品をめざして、実際に授業内だけでなく、校外でも様々な対象物の写真を撮影し、素材を収集する。
- ・タイポロジーの趣旨をふまえて、テーマ・モチーフ・構図・光量などについて、意図と工夫をしながら編集し、スライドにまとめる。



まとめ

- ・鑑賞ワークシートに考えたことや感じたこと、表現の意図と工夫などを記入する。言語化することにより、自分の制作を振り返り、目的・成果・課題を明確にする。また、ワークシートをもとに整理した内容を用いて、プレゼンテーションを行う。
- ・それぞれの作品を相互に鑑賞する。他者の表現やテーマの設定を読み取り、理解する。



ここでICTを活用!

- ・教員はGoogle Classroomを通して課題の提示やGoogleスライドのテンプレートの配付を行う。
- ・タイポロジー的な写真を撮影・編集する。撮影はChromebook等のカメラ機能を活用する。
- ・テンプレートのスライドに作品を貼り付ける。写真の編集もChromebookで行い、構図やサイズなど均質にする。
- ・生徒は作成したスライドをGoogle Classroomに提出する。
- ・教員は生徒全員分のスライドを再配付し、生徒は他者の作品を鑑賞する。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

- (1) 生徒が新しい表現に触れることにより、新しい可能性やイノベーションを生むための方法論を知ることができる。
- (2) タイポロジーの手法を用いた表現は、技能に重きを置かない表現であり、撮影(=過程)がそのまま表現として成立するため、思考と表現の直接性とスピード感がある。また、フィードバック(撮り直し)も容易であるため、即時的に生徒の学びや気づきを反映することができる。
- (3) 相互鑑賞の際に各自の端末を活用することで、生徒どうしが作品を見やすくなる。また、着想から過程の部分を見取りやすい。